

にちぎん  
140周年  
企画展



# 水辺の風景と 日本銀行

日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ



日 本 銀 行 金 融 研 究 所

貨幣博物館

C U R R E N C Y M U S E U M



# 水辺の風景と 日本銀行

日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ

## ご挨拶

水辺の再生への機運の高まりや都市の水運の機能が見直されつつある現在、貨幣博物館の隣を流れる日本橋川周辺では新しい街づくりが始まろうとしています。

江戸時代、全国各地と江戸を結ぶ舟運ネットワークにより江戸に物資が運ばれました。江戸には水路が張り巡らされ、その1つ現・日本橋川の河岸には蔵が建ち並び、日本橋のそばには魚市場ができ、江戸の食を支えました。

物流や商業の中心となっていた日本橋川エリアの重要性は、明治時代に入っても変わりませんでした。日本銀行の創設前、日本橋川周辺には三井組、第一国立銀行、紙幣寮などの金融に関わる大建築が次々と建てられ、それらの建物を含む水辺の風景を描いた錦絵が多く描かれました。

1882年日本銀行開業の地（日本橋箱崎町）、そして現在の日本銀行本店本館（1896年竣工）の地（日本橋本石町）いずれも、日本橋川の水辺の立地です。

日本銀行創設140周年にあたる2022年、明治初期に試行錯誤の中で、貨幣・金融制度が整備されていき、1882年に中央銀行・日本銀行が誕生するまでの歩みを、江戸後期から明治初期の日本橋川沿いを描いた錦絵と共にご紹介します。

日本銀行金融研究所貨幣博物館

## 目次

ご挨拶・目次	2
にちぎん140周年企画展 「水辺の風景と日本銀行 日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ」によせて／陣内秀信	3
I 江戸と日本橋川	4
II 日本橋川沿いに辿るにちぎん誕生までの歩み	8
III 常磐橋そばの日本銀行本店へ	32
明治初期「バンク・ヲフ・ジャッパン」と「三井組銀行」紙幣／関口かをり	46
旧様式国立銀行紙幣5円券に描かれた日本橋の図柄について／大西舞	47
錦絵に描かれた蒸気船「通運丸」とその運賃／松原早希	49
明治前期における日本橋川の橋梁／下田夏鈴	50
日本銀行初代本店の地の建物について／関口かをり・下田夏鈴 —コンドル建築の再利用と日本銀行による増築棟—	51
資料目録	52
主要参考文献	54
協力者一覧・謝辞	55

### 凡例

- ・本書は、日本銀行金融研究所貨幣博物館が開催するにちぎん140周年企画展「水辺の風景と日本銀行—日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ—」（会期：2022年9月16日（金）～2022年12月4日（日））の展示図録である。
- ・本書に掲載の資料は、特に注記のない限り、日本銀行金融研究所貨幣博物館の所蔵資料である。
- ・本書に掲載の資料は、一部展示されない資料を含んでいる。
- ・図版、資料名、作者・生没年（または作画期）、資料番号の後に解説を付した。
- ・資料名は、原則として資料に表記されている原題としたが、資料の内容に即して適宜付したこともある。

## にちぎん140周年企画展

### 「水辺の風景と日本銀行 日本橋川と中央銀行誕生までのあゆみ」によせて

陣内秀信 法政大学特任教授  
(中央区立郷土天文館館長)

江戸が水都だったことは、広く知られるようになった。同時に、文明開化以後の東京も、少なくとも昭和初期まではその性格を受け継ぎ、水の側に顔を向けた魅力ある都市空間を誇っていた。この水都・江戸東京を象徴する重要な空間軸が「日本橋川」である。

江戸時代、佃島の沖合に停泊した全国から集まる大型帆船の荷は小船に積み替えられ、内部河川を経由する東北や地廻り経済圏からの荷とともに、江戸市中の掘割り沿いの河岸に並ぶ蔵に運ばれた。その舟運による物流の大動脈がまさに日本橋川であり、その中ほどに大店が集まる商業・金融の中心、日本橋が存在した。

時代が近代に転じ、文明開化の花形建築の多くが水辺に現れたことも興味深い。西洋文明の導入で、新たな種類の建築が次々に水辺に登場し、ランドマークとして人々の目を奪った。海運橋のたもとに明治初期につくられた「第一国立銀行」（元は「三井組ハウス」として誕生）の和洋折衷の建築は、文明開化の象徴だった。やがて日本初のビジネス街となったこの兜町の日本橋川の水際に、財界の指導者、渋沢栄一がイギリス留学帰りの辰野金吾に設計を依頼して、ヴェネツィア建築を翻案した自邸が出現させ、当時の若き文学者、建築家のロマンを掻き立てた。

日本銀行の歴史も、明治期の水都東京の華やかな舞台、日本橋川と深い関わりをもつ。開業の地はこの川が隅田川に注ぐ永代橋のたもとであり、ジョサイア・コンドル設計の赤煉瓦の美しい北海道開拓使の建物が1882年に開設された。イスラム風を加味したヴェネツィア様式で飾られ、水辺らしい開放的な佇まいを見せた。

その後、日本橋川を上った常盤橋御門の向かいの水辺に、日本銀行本店が建設された（1896年竣工）。コンドルの弟子、辰野金吾が渾身の力を奮って創り上げた明治建築の記念碑的作品である。その正面は、明らかに日本橋川に向けられている。大量の重い石材の運搬も日本橋川の舟運で可能となった。

水都東京の再生にとっても、日本銀行の歩んだ歴史をそのメインカナル、日本橋川との深い結びつきから解き明かす本企画展は、大きな弾みとなるに違いない。

